

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05010070

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	6	保健・医療の充実	事業優先度	A		
単位施策	3	母子保健・女性の健康支援の充実	政策事務分類	4	法定自治事務	
事業名	5歳児発達支援事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	5	保健福祉課	
事業主体	雄武町		関係課	8	保育所	
事業指標	5歳児健診受診率			12	教育委員会教育振興課	
事業目標	90%		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加 住民協働	有	発達障がいへの理解・関心の向上	関係例規・法令名	有	母子保健法、発達障害者支援法	
			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	発達障がいの早期発見と適切な支援への連携を図るとともに、小児肥満等小児期からの生活習慣病予防を目的に5歳児健診及び発達支援にかかる相談事業等を実施する。	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催	・5歳児健診 (3歳児健診等との同時実施) ・発達支援専門機関との連携 ・発達支援事業の開催
	事業費(千円)	500	100	100	100	100
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	500	100	100	100	100	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	95	50	45	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	95	50	45			
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) ・5歳児健診受診率 100% ・支援者検討会 1回 ・発達支援講話 1回出席者19名 ・個別相談 2回 60件	(実施内容等) ・5歳児健診受診率 92.6% ・支援者検討会 9回 ・発達支援講話 1回出席者53名 ・個別相談 2回 12件	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	90%	90%	90%	90%
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	50%	45%	0%	0%
	全体達成率	10%	19%	19%	19%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆			

事業名	5歳児発達支援事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	保健係長	河原真由美

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	5歳児児童及び保護者、保育関係者、学校教員等発達障がいにかかる支援者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	5歳児健診受診率	
【抱える課題やニーズは】	就学に向けた準備が必要な時期に発育、発達に差異が出る時期であり、保護者の心配も高まる時期である。	指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	就学前に発育、発達の確認ができ、不安なく就学準備を整えることができる。	① 5歳児健診受診率(前年比)	目標年度	平成26年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	就学前に発育、発達の確認ができ、不安なく就学準備を整えることができる。		目標値	100%
			実績値	92.5%
			達成度	92.5%
		② 5歳児健診受診率	目標年度	平成26年度
			目標値	90%
			実績値	92.5%
			達成度	102.8%
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	5歳児健診実施	乳幼児健診と同時実施により、健診及び心理発達相談、栄養、歯科相談を実施した。		
	発達障がい児支援関係者による支援検討会の開催	保育所、学校教員等発達障がい児(者)支援者による検討会、講話等で知識、理解の向上を図った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	発達障がい者支援法により、発達障がいの早期発見、早期支援は市町村義務である。母子保健事業と合わせた5歳児健診と合わせて町内全体の発達障がいへの理解など必要性がある。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	5歳児健診受診率は高率で経過。健診だけでなく、支援者の知識、理解に向けた事業は有効であった。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	乳幼児健診と同時実施することで、人員の延べ対応回数を減らし事業効率を図った。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	受益者負担はない。就学前の児童への健診実施及び支援者への知識、理解向上は町民全体への発達障がいへの理解を得る機会となり公平である。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
健診及び支援検討会の実施など年々支援関係者数が増加し理解者増につながっており、今後も計画とおりに進めることとする。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
5歳児健診から発達障がいにかかる支援につなげているが、今後は中学生や成人まで発達障がいによる健康課題や生活障がいが発生しないような支援へのかわりが必要。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止